

若手人材育成拠点の設置と人事制度改革 (実施期間：平成18～22年度)

実施機関：東京農工大学（総括責任者：小畑 秀文）

プロジェクトの概要

若手研究者が自立的に研究できる独立した拠点を設置する。テニユアトラック制度を中心とする人事制度を新設して、自立的に独自の研究を遂行できる環境を提供し、併せて、研究テーマの自立性を保証しつつ高い見地からの指導や支援を受けて優れた研究成果を挙げられるようにする。また、高いテニユア取得率を前提にポストを確保する。本プロジェクト終了までにこの理念と制度を全学に拡大し、定着させる。テニユアを取得したテニユアトラック若手研究者には、既存教員も含めて、研究教育能力を拡大するためのサバティカル制度を設ける。また、研究・教育能力の維持を図るための再審査制度を導入する。採用審査と再審査のため、学外委員も含めた教員審査委員会を組織し透明性を確保する。

(1) 評価結果

| 総合評価 | 目標達成度 | 国際公募・選考・業績評価 | 人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績) | 人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント) | 実施期間終了後における取組 | 中間評価の反映 |
|------|-------|--------------|---------------------------------|--------------------------------|---------------|---------|
| S | s | a | a | s | s | a |

総合評価：S（所期の計画以上の取組が行われている）

(2) 評価コメント

機関の規模と比較して多数のテニユアトラック若手研究者（以下、「TT若手」という）を採用し、ライフイベントへの配慮などきめ細かな施策によってTT若手を育成し、公平性・透明性の高いテニユア審査によって多くのTT若手を自機関のテニユア職に採用したことは高く評価できる。また、実施期間終了後は部局主導のテニユアトラック制（以下、「TT制」という）に移行し、継続性や定着を目指していることを高く評価する。

- **目標達成度**：全准教授の13%に当たるTT若手を採用し、自機関のテニユア職への採用比率も十分高い水準を達成している。またサバティカル制度や研究指導認定の再審査制度も導入し、若手研究者の育成システムを構築したことは高く評価できる。
- **国際公募・選考・業績評価**：多くの応募者を確保し、透明性の高い評価・審査制度と体制を確立していることは評価できる。テニユア審査基準をTT若手との合意の下に個々に設定するユニークな方法を採用しており、今後その検証に基づいた発展を期待する。
- **制度設計に基づく実施内容・実績**：実施期間の当初の段階で「若手人材育成拠点」を設置し、十分に機能させていることは評価できる。TT若手には当初に策定された計画に基づいて適切な支援が行われたが、今後、研究支援者の雇用費を機関として支援しなかったことに関する検証とその結果を踏まえて実践することを期待する。
- **制度設計に対するマネジメント**：総括責任者のリーダーシップが十分に発揮されており、またTT制継続を目指した機関と部局のマッチングファンド方式、ライフイベントへの対応などがな

されており高く評価できる。さらに、「日本型テニユアトラックシンポジウム」を毎年度主催することによって、本プログラムの発展に大きく貢献したことも高く評価できる。

- **実施期間終了後における取組**：実施期間後半から自主経費による TT 若手の任用を開始し、マッチングファンド方式によって継続性が担保されていることは高く評価できる。サバティカル制度、再審査制度も含めた養成システムの定着によって、若手研究者育成を目指した TT 制を本格的かつ恒常的に導入する我が国最初の機関となることを期待する。
- **中間評価の反映**：本プロジェクトに対する中間評価コメントでは実施期間終了までに改善すべき点を指摘しておらず、中間評価結果を維持したことは評価できる。